

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176100147		
法人名	株式会社 美唄環境センター		
事業所名	グループホーム「アルメリア」東ユニット		
所在地	北海道美唄市東5条南4丁目3番9号		
自己評価作成日	平成29年3月24日	評価結果市町村受理日	平成29年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2016.022_kan=true&JigyosyoCd=0176100147-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アルメリアの花言葉「思いやり」を職員全員が心に刻み、創設時の「願い・思い」を風化させること無く日々仕事にあたっています。住宅地で「遊緑通り」公園に面し立地条件もよく、四季の移り変わりをホールから見渡せる採光に配慮した建物は、入居されている方にも安心感を与える暮らしやすいホームとなっております。ホームに面した道路は小中学校の通学路となっており、毎日子供たちの元気な姿が入居者にも新鮮に感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「アルメリア」は、美唄市の静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。近くに遊緑通りや公園もあり、緑豊かな環境に恵まれている。平屋建て屋内の中央にある広いロビーで、日々体操や歩行訓練を行っている。ユニット合同で誕生会や行事を行い、ボランティアのオカリナ演奏を鑑賞したり、近くにある美唄学園生の来訪で歌や踊りの披露、手作り作品のプレゼントなどもある。ユニットの共用空間は明るく広々として開放感があり、掃除も行き届いている。開設14年が経過する中で管理者は町内会の役員を引き受けて地域との関係作りを積極的に進めている。近所から収穫物の差し入れや事業所菜園のお手伝いもあり、近隣と自然に触れ合っている。運営推進会議では、町内会や行政の代表者、地域住民、家族の参加を得て事業所の取り組みを報告し、意見や情報を運営に活かしている。管理者は各ユニットのリーダーを中心に利用者の楽しい暮らしを支えるために、更に工夫をして積極的に取り組みたいと考えている。ユニット会議で利用者の状態を話し合い、個別の意向やニーズ沿って支援し、季節の花見には東明公園に交代で出かけて楽しんでいる。家族の協力で馴染みの場所にも出かけている。職員は理念にある利用者の想いを尊重しながら温かなケアを行い、家族にも喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は提示し、ケアに結びつくようにしている	経営理念を事業所理念として掲示し、会議の中で理念に触れて指導することもある。今後は地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を職員間で話し合い作成したいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が町内会の役員となり町内の方などと蜜に接している	町内会の清掃活動に利用者も参加し、住民と一緒にに行っている。養護学校の生徒が交代で来訪して歌や踊りを披露し、生徒の手づくり作品をホールに掲示している。事業所の焼肉パーティにはボランティアのオカリナ演奏を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を利用し、地域の方に理解を深めてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見等スタッフに伝えている	会議を2ヵ月毎に開催し、町内会や行政の代表者、地域住民、家族の参加で、運営状況、防災、外部評価などを議題に意見を交換している。家族は1～2名の参加になっており、会議案内や議事録などは全家族に送られていない。	各会議案内にテーマを記載して全家族に送り、参加できない家族の意見も得て会議に活かすよう期待したい。また全家族に議事録や資料などを送り、家族の関心につながるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当の方と話し合っている	管理者は頻繁に市役所に出かけ、介護認定手続きの代行や、費用負担などの実情を相談し、各担当者と連携してサービス利用につなげている。生活保護課担当者とは、事例に沿って相談し連絡などを密に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人の状況を考え、拘束とならないようにスタッフ同士で話し合っている	事故検討委員会を中心に安全面と身体拘束について確認し、拘束をしないケアを行っている。マニュアルにある「禁止の対象となる具体的な行為」11項目を掲示し、勉強会で確認する事を考えている。また勉強会で言葉遣いについても職員間で適切な言葉を出し合い、学びを深める意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、内容をスタッフに伝え虐待とならないように注意している		

グループホーム アルメリア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援の利用があり、必要な方には利用を促している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明をし、家族の協力を得られるようにしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や訪問時、本人の状態を伝え家族の希望も聞くようにしている	家族の意見やケアの意向を聞き、「連絡ノート」に記載して共有しているが、今後は個別に記録し、些細な想いも把握したいと考えている。年数回発行の「ホーム便り」にメッセージ欄を設けたり、個別のお便りで暮らしの様子を伝えたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡会議を開き、話し合いの機会を設けている	ユニット会議では役職者の「連絡会議」の内容を報告し、業務改善、ケアについて意見を交換している。管理者は日々の業務で意見を聞いたり、必要な時は個別面談を設けて職員の負担が軽減できるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員相互の資質や能力に応じた対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修への参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会に入り情報を共有している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	GHで出来る事を本人へ伝え、混乱されないようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を通じて、家族の協力の重要性を伝え利用者のニーズを知るようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がGHで生活できるか、ショートステイ利用、訪問して面接し、家族が不安に思っている事や希望など話し合い対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じて、調理や掃除をスタッフと一緒にやっている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話で本人の状態を伝え相談し関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の住んでいた町内の方、知人の来訪時に面会の場所を提供している	趣味の関係者や知人などの来訪があり、ロビーで交流を深めている。家族の協力で法事やお墓参り、理美容室、お寺、教会などに出かけ、外出時に自宅の畑作りを楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作業を一緒に行ってもらったり、食卓の席を考慮している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や電話を通し、家族の相談に応じるなど関係継続を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からもこれまでの本人の暮らしや様子を聞き、暮らしがより良いものになるよう意見交換している	ほぼ会話が可能で、その中から本人の趣味嗜好なども把握している。課題分析(アセスメント)表に項目を追加して趣味嗜好の情報を記載し、介護計画書1表の意向につなげたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントシートの利用で把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の送り時の話し合い、モニタリング、面会時の家族の希望でプランに反映させている	申し送りやミーティングで本人の状態を把握し、計画作成担当者を中心に家族の意向を確認して計画に反映させているが、書類として充分とは言えない。今後は職員が介護計画書を参照しながら日々の記録を行う方向で考えている。	日々のケアの中で介護計画を意識してケアを行い、計画書の見直し時に、目標に沿ってサービス内容の評価を行うことができるよう書類の整備に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態を特記事項に記録しプランに利用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応や本人の状態に応じて家族と相談して補助具の使用などを検討している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事やボランティアの受け入れを行い、交流の場を設けている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の利用を含め家族の希望に応じてかかりつけ医を決めている。受診時の家族の負担に配慮している	利用開始時に受診先を確認し、かかりつけ医の受診や専門的な他科受診には家族が対応し、通院時に状態をメモにして渡している。月2回協力医療機関の訪問診療を受けている。受診内容は利用者ごとのファイルに綴り共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師に状態を伝え相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書や電話を利用し情報交換や相談をしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より家族に重度化した場合の相談しており理解してもらっている	利用開始時に「協力医療機関契約書」を説明し、同意を得ている。状態の変化時には関係者で方針を確認し、医療行為が継続する場合は入院方向になっている。重度化した場合の対応を口頭で丁寧に説明しているが、文章の作成も検討している。	事業所で対応が可能な、重度化した場合の対応に係る指針を作成し、利用開始時に文書で説明できるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの利用、事故発生時の対応をスタッフに伝えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や運営推進委員会の利用で地域の協力を得られるようにしている	今年度は昨年の11月に消防署の立会いで夜間を想定した避難訓練を行い、3月に日中を想定した自主訓練を行っているが、住民の参加は得られていない。地震等は今後の課題になっている。次年度に職員の救急救命訓練の受講を予定している。	次回には消防署員の下で、住民の参加も得て夜間を想定した避難訓練の実施に期待したい。地震を想定し、事業所内で危険個所の確認や各ケア場面での対応について職員間で話し合うことを期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時にはノックし、本人が不快にならないような言葉遣いや対応に注意している	利用者の呼び方は家族や本人の要望も取り入れて失礼のない呼びかけをしている。気になる言葉かけが聞こえたら都度、注意をして改善している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや質問の仕方を考慮し、自己選択と自己決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の体調を考慮し、無理のないよう声掛けしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き促し声掛けしている		

グループホーム アルメリア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等出きる事を一緒に行ってもらっている。メニューの希望を聞いている	7月に焼き肉をする他に誕生日や季節行事など変化のある食事会を開催している。畑で採れた新鮮な野菜も使い楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に応じた量や大きさなど工夫し、飲み物も飽きないように種類を増やし工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の洗面時や本人に合わせた洗浄をしてもらっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄リズムを把握し、定時誘導を行い汚染時声掛けに工夫し、パンツ等交換している	全員の排泄記録を付けている。多くの利用者が尿意を感じたらトイレに行けるが、声かけ誘導が必要な場合は時間や本人の仕草をみながら失敗の無いよう適切にトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取と運動を促しスムーズな排便が出来るようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望にあわせ出来るだけ同姓介助している。入浴を楽しめるよう入浴剤を利用している	毎日3名程度が午後3時～5時頃に入浴をしている。浴槽の出入りが難しい場合はシャワーチェアを使っての入浴になるが、殆どは入浴剤を入れた湯船に浸かっての入浴が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力・体調に合わせ休息できるよう気配り声掛けをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋を利用して理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出きる事得意なことを考慮し、作業やレクレーションを行っている		

グループホーム アルメリア

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(東ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や季節を考慮して、買い物や散歩ドライブ等行っている	天気の良い日は遊緑通りや近隣の公園まで散歩に出ている。介護度の違いにより揃っての外出は困難になっているが数回に分けて車で桜を見に行っている。家族が対応して見舞い、お寺、教会、法事、墓参り、自宅に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力をいただき対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できる環境で、書いた手紙の投函等支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーにてCDをかけ音楽を聴いたり歌を歌ったりしている。花や植木などを置き手入れや見て楽しめるようにしている	両ユニットの玄関を入ると広いロビーがあり、合同の誕生会や行事、体操や歩行訓練、冬期の運動にも使われている。ユニットには畳のスペースもあり、ソファや椅子など好みの場所で過ごしている。大きな加湿器もあり、温湿度の管理がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやTVを設置して談話できるようにしたり、食事の席を決め他者に遠慮せず暮らせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具、身の回りの品を使用してもらい居心地よくすごせるよう工夫している	あらかじめカーテン、ベッド、クロゼット、テレビ、冷蔵庫が用意されている部屋に、利用者ごとの馴染みの物品を持ち込み心地よい部屋になっている。家族の写真や時計、カレンダーを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや食堂に大きな看板をつけたり、自室に名前をつけ理解してもらっている		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176100147		
法人名	株式会社 美唄環境センター		
事業所名	グループホーム「アルメリア」西ユニット		
所在地	北海道美唄市東5条南4丁目3番9号		
自己評価作成日	平成29年3月24日	評価結果市町村受理日	平成29年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0176100147-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アルメリアの花言葉「思いやり」を職員全員が心に刻み、創設時の「願い・思い」を風化させること無く日々仕事にあたっています。住宅地で「遊緑通り」公園に面し立地条件もよく、四季の移り変わりをホールから見渡せる採光に配慮した建物は、入居されている方にも安心感を与える暮らしやすいホームとなっております。ホームに面した道路は小中学校の通学路となっており、毎日子供たちの元気な姿が入居者にも新鮮に感じてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示しており、ケアに結びつくようにしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶し、交流を図っている		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の代表を交え運営推進委員会を行っている		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	連絡会議を通して運営推進委員会の内容をユニットに伝えている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話や訪問で担当者と連携を密にしている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	連絡会議や日々の申し送りにおいて常に身体拘束について話し合いを持っている		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアマネ等が外部の研修に参加し内容をスタッフに伝えている		

グループホーム アルメリア

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の成年後見制度の研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明をし、家族に理解してもらっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の希望を聞きホームに伝えている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡会議を開き話し合いの機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員相互の資質や能力に応じた対応をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部研修への参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入り他施設とも情報交換を行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を通し利用者のニーズを知るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を通し家族が困っていることや希望を聞きだすようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時のカウンセリングでサービスが適切かどうか見極めアドバイスをしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やレクリエーションを一緒に行う事で関係を築いていく		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時や電話で本人の状態を伝えて相談し、共に支えていく人間関係を築いていく		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容や美容室などに外出していただく事や知人や、町内の方の面会の場を提供している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮し食卓の席を決めたり、ソファを集いの場にしていただきレクリエーションも一緒に行えるようにしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や電話で家族の相談に応じる等、関係継続を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からもこれまでの本人の暮らし方や様子を聞き、暮らしがより良い物になるよう意見交換をしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から話を聞きプラン反映に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントシートを活用し把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り時の話し合いモニタリングと面会時の家族の希望でプランに反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特記事項を記録しプランに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応や本人の状況に応じて補助具を検討したりしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れをして、地域の方と暮らしを充実させている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に応じて、かかりつけ医を決めている。また往診の利用で医師と看護者の情報の共有を図っている		

グループホーム アルメリア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師、訪問看護師に状況を伝え相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書の利用や本人の状況を電話を使い病院と情報の共有を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より家族に重度化した場合の相談をしており理解してもらっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変事故等については、迅速かつ効果的な対応が率直に出来るよう協議訓練を重ねている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に地域の協力が得られるように、電話番号や住所を掲示している		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時にノック、本人が不快にならないような言葉使いに注意している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや質問の仕方を考慮し自己選択、自己決定が出来るようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその時の体調を考え無理とならないように声掛けしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き、促し声掛けをしている		

グループホーム アルメリア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、食器の片付けなど一緒に行っているほか、メニューの希望を聞いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者に応じて量や大きさを工夫し、飲み物も飽きないように種類を変えたりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の促しや見守りで洗浄してもらっている。必要な方には昼食後のうがいなどの促しを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人が気にされぬよう工夫し、パットの交換や排泄の促し定時の誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取と運動を促し、スムーズに排便できるようにしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望時間、希望の日を聞き配慮している。入浴を嫌う方にも声掛けに工夫して楽しめるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力、体調に合わせて休息できるように声掛けしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の処方箋を利用し理解している。症状の変化の確認に努め、必要に応じて看護師、病院に連絡し相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出きること、得意なことを考慮し作業やレクリエーションを行っている		

グループホーム アルメリア

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮し、買い物・散歩・ドライブなどに出かけている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力と個人の能力に応じて支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できる。書いた手紙の投函等を支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビーなどでCDをかけ音楽を聴いたり、カラオケや歌を歌ってもらっている。植木鉢をおいて手入れや眺めてもらっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファを設置しテレビを見たり会話が出来るように、食卓席は相性を考慮し席を決め会話できるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や身の回り品を使用してもらい仏壇や家族やペットの写真を置き居心地よく過ごせる工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや食堂に大きな看板をつける。自室に名前をつけて混乱しないようにしている		

目標達成計画

事業所名 グループホーム アルメリア

作成日：平成 29年 4月 5日

市町村受理日：平成 29年 4月 6日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	ケアプランと記録が連動していない。家族に本人の状態が伝わっていない。	プランと記録が連動しモニタリングがし易い様にする。家族に本人の状態をおたより等で伝えるようにする。	介護記録を利用しモニタリングし易い様にする。おたよりを作り家族に送る。	3ヶ月
2	1	現在アルメリアには経営理念があるが、地域密着型の介護理念はない。スタッフと理念を共有し介護の理念とするものを作る。	介護理念をスタッフ皆で考え共有し、地域密着型のものとする。	スタッフミーティング等で意見をまとめ、アルメリアの介護理念とし、地域密着型の考え方も取り入れる。	6ヶ月
3	33	重度化した場合の家族に対するアルメリアの指針が提示されていない。	アルメリアとして入院、看取り等について、家族の意見も取り入れた上で、対応を文書化する。	重要事項に重度化した場合のアルメリアの指針を記載する。	3ヶ月
4	4	運営会議に家族の参加がない。また、会議の内容が同じになっている。	なるべく多くの家族の意見が会議に反映できるようにする。毎回、会議にテーマを決めて行うようにする。	会議の案内等を出し、現在の委員の皆様にも家族の参加が必要なことを伝え、家族の意見が反映できるようにする。	1年
5	6	スタッフ全員が身体拘束とならない介護内容を理解されていない。マニュアルをスタッフが確認できていない。	スタッフ全員が身体拘束とならない介護が出来るように、身体拘束とはどういう事が理解してもらう。	ユニット内に身体拘束となる項目を掲示し、ミーティング等で全員に理解してもらう。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。